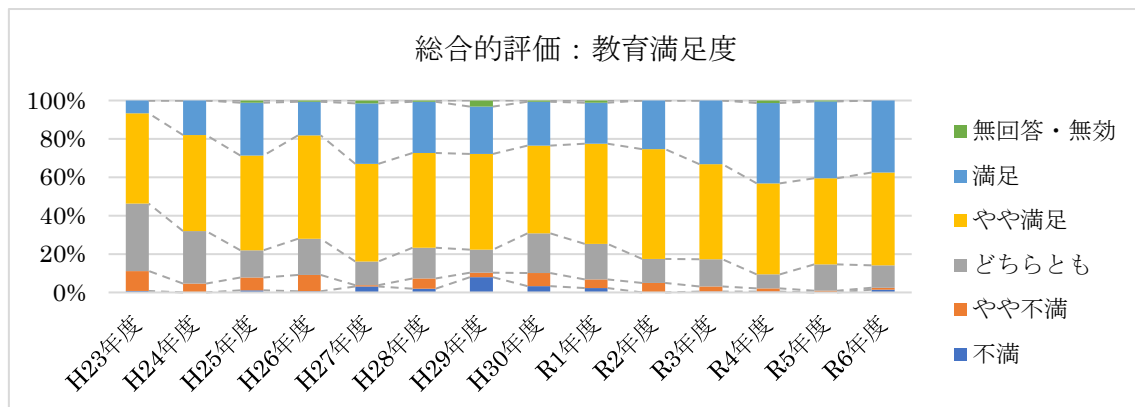


令和 6 年度卒業論文提出時調査結果概要

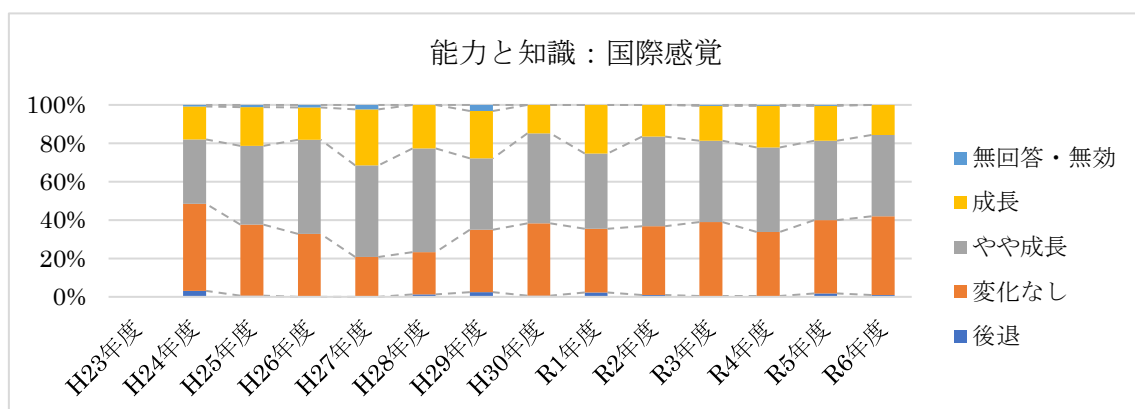
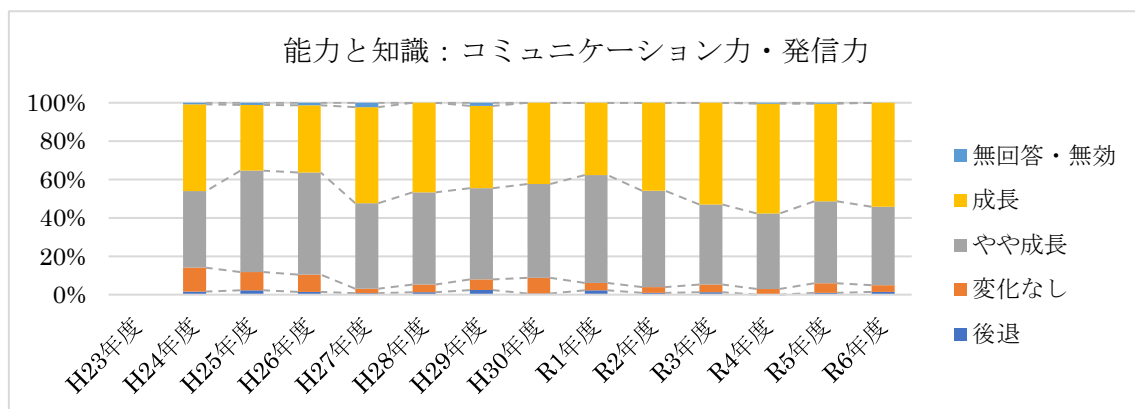
公益学部では、卒業論文を提出する 4 年次を対象にアンケートを実施し、学生の成長実感や満足度等について、過年度との比較を行っている。

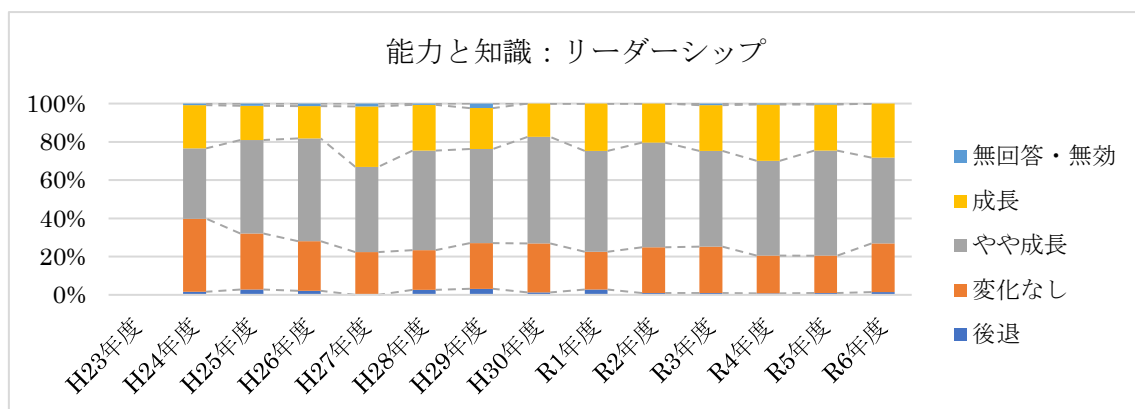
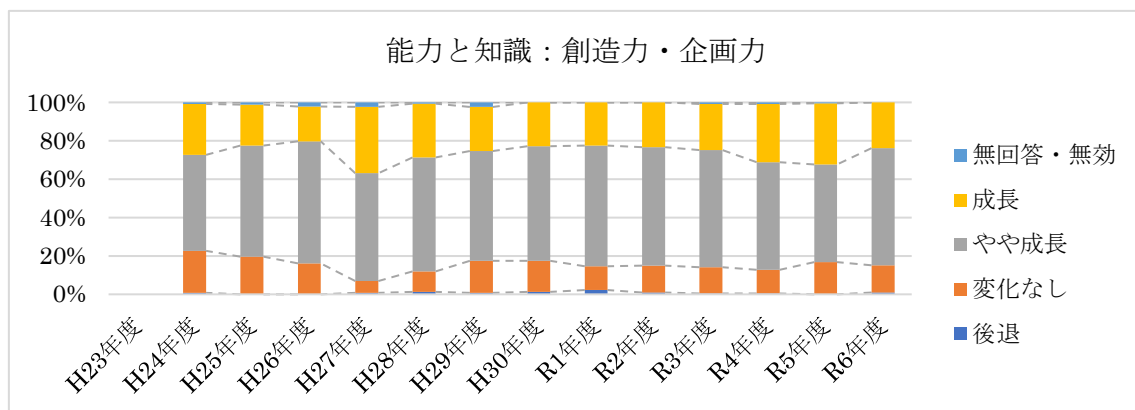
令和 6 年度（令和 7 年 1 月回収）は回収率 100%（205 名）であった。

以下、重要な項目について分析結果を記す。

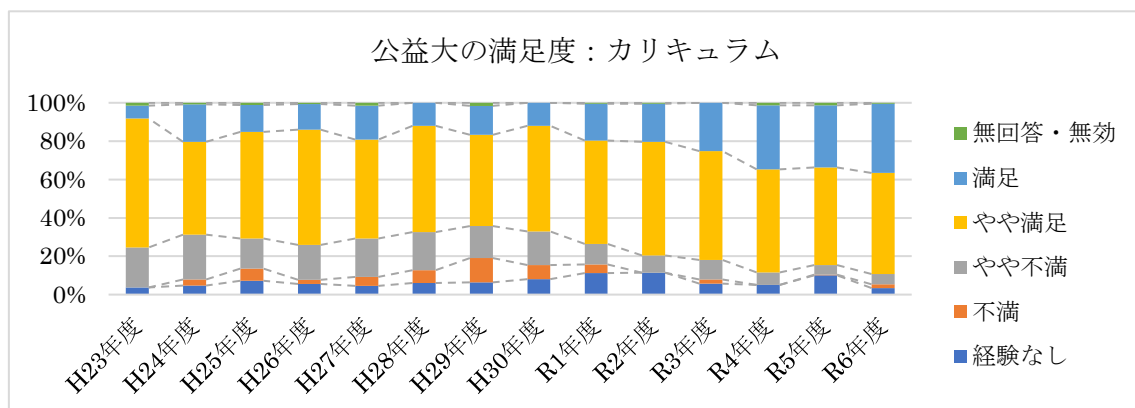


「満足」「やや満足」の合計は 85.9%で、過去 14 年間で 2 番目に高かった。一方、「やや不満」「不満」の合計は 2.4%で、3 年連続で 2.5%以下の低い数値を記録している。





「コミュニケーション力・発信力」「国際感覚」「創造力・企画力」「リーダーシップ」の「4つの力」について、「成長」「やや成長」と回答した割合の合計は、例年とあまり変わっていない。



各年度から「経験なし」という回答と未回答を除いて比較すると、令和6年度は「満足」「やや満足」の割合が前年度に引き続き92.4%と、過去最高となった。

対象学生のほとんどは、令和3(2021)年度に入学し、コロナ禍で様々な制約を受けたが、前年度に引き続き高い満足度が示しており、評価できる。

得られた情報は、ディプロマポリシーに定める4つの力の成長実感も含め、令和8(2026)年度以降入学生向けのディプロマポリシーやカリキュラムポリシーの見直しの際に活用した。